

## 七尾市の少子化に関する住民のニーズ調査と子育てしやすい地域づくりの政策提案

指導教員：金沢星稜大学人間科学部こども学科 准教授 北川節子

参加学生：金沢星稜大学経済学部 2 年生

井城智志 市村美央 内山康平 太田航介 蔭田俊介 川畑麻美 黒崎秀成 越野淳子  
小中誉史美 七野春佳 柴田一樹 田脇純子 中黒剛成 萩原将悟 廣瀬勝久  
宗石健太郎 谷内彩香 柳橋弘基 横田元樹

### 1. 調査研究成果要約

本研究は七尾市の「少子化対策 ～子育てしやすい地域づくり～ ・少子化対策として産み育てやすい環境について考える ・三世帯同居の推進」の地域課題に対して行われたものである。七尾市の未就学児，小学生 1～3 年生の保護者に対して行われたアンケート調査により回収された 873 人分のデータを入力，データ分析と報告書作成を行った。さらに七尾市の少子化対策について検討した結果，13 の政策提案を行うことができ，それについて七尾市で報告会を行った。

### 2. 調査研究の目的

本調査は次世代対策推進法に基づく市町村行動計画策定に際し，住民の民意を反映させるための必要な措置としての調査である。2004 年に行われた前期調査に引き続き，行われるものであり，前期調査の実施内容を評価し，後期計画を立案するための資料となる調査である。

### 3. 調査研究の内容

#### 1) 調査研究骨子

- ①調査対象の属性
- ②就労状況と就労のニーズ
- ③定期的保育サービス利用状況とニーズ
- ④一時預かり等子育て支援サービスの利用とニーズ
- ⑤育児休業制度の利用状況
- ⑥放課後児童クラブの利用状況とニーズ
- ⑦子育て環境に関する意識
- ⑧少子化社会に関する意識
- ⑨保健・医療・食育の状況

#### 2) 調査対象

未就学児および小学校 1～3 年生を持つ保護者

#### 3) 調査方法

- ①未就学で未就園及び幼稚園等に入園している子どもを持つ保護者には，郵送で調査票を配布，郵送で回収
- ②未就学で保育所に入所している子どもを持つ保護者には，郵送で調査票を配布，保育所を通して回収
- ③小学生を持つ保護者には，小学校を通して調査票を配布，小学校を通して回収

#### 4) 調査期間

2009 年 6 月 22 日～6 月 30 日

## 5) スケジュール

2009年5月	調査内容検討
6月	調査用紙配布・回収
7月	データ入力, 集計・分析
8月	政策提案討議, 報告書作成・提出
11月	七尾市において政策提案報告会

## 4. 調査結果

### 1)回収率

配布数は未就学児 685, 小学生 375, 計 1,060, 回収数は未就学児 548, 小学生 325, 計 873 であり, 回収率はそれぞれ 80.0%, 86.7%, 82.4%となった。回収された調査用紙には一部分未記入のものがみられたが, 民意を反映するということで, すべてを有効回答とした。

(以下, 結果については今回の発表内容に関連したもののみを記載する。)

### 2)未就学児について

#### (1)家族形態

家族形態は, 「核家族世帯」304人(55.5%), 次いで「三世帯世帯」180人(32.8%)であった。

#### (2)定期的保育サービスの利用の有無

未就学の子どもが定期的保育サービスを「利用している」は459人(83.8%), 「利用していない」は81人(14.8%)であった。

#### (3)定期的保育サービスの週あたりの利用日数

定期的保育サービスを利用している459人の, 週あたり利用日数は「6日」308人(67.1%), 次いで「5日」142人(30.9%)であった。

#### (4)土曜日の定期的保育サービスの利用希望

##### ①希望の有無

土曜日の定期的保育サービスの利用希望は「毎週利用」が284人(51.8%)と最も多く, ついで「月1~2回」は146人(26.6%)であった。

##### ②希望開始時刻と希望終了時刻

土曜日の保育サービスを「ほぼ毎週利用」「月1~2回」の利用を希望すると回答した430人の希望開始時刻は, 「8時」が204人(47.4%), 「9時」が160人(37.2%)であった。

土曜日の保育サービスの希望終了時刻は, 「12時」が129人(30.0%)と一番多く, 次いで「18時」89人(20.7%), 「17時」84人(19.5%)であった。

#### (5)日曜日・祝日の定期的保育サービスの利用希望

##### ①希望の有無

日曜日・祝日の定期的保育サービスの利用については, 「希望なし」が383人(69.9%)と最も多く, 次いで「月に1~2回」が113人(20.6%)であった。

##### ②希望開始時刻と希望終了時刻

日曜日・祝日の保育サービスを「毎週利用」「月に1~2回」希望すると回答した134人について希望開始時刻を聞いたところ, 「9時」が62人(46.3%), 次いで「8時」が49人(36.6%)であった。

希望終了時刻は, 「18時」が44人(32.8%)と1番多く, 次いで「17時」36人(26.9%)であった。

#### (6)放課後児童クラブの利用希望

##### ①利用希望の有無

小学校入学以降, 放課後児童クラブを利用したいかについては, 「利用したい」が274人(50.0%),

「わからない」が 157 人 (28.7%) であった。

#### ②利用希望日数

放課後児童クラブを「利用したい」と回答した 274 人の 1 週当たり利用希望日数は「5 日」137 人 (50.0%)、「6 日」59 人 (21.5%) であった。

#### (7)子育ての悩み・原因・対策

未就学児の親の子育ての悩みについては、「経済的な不安・負担」158 人 (28.8%)、「自分の時間を充分もてない」155 人 (28.3%)、「しつけがうまくいかない」135 人 (24.6%) であった。少子化の原因は「子どもの養育や教育のための経済的負担」451 人 (82.3%) と最も多く、少子化の流れを変える予防策は「子どもの養育費の軽減」430 人 (78.5%)、「子ども医療費助成制度の充実」355 人 (64.8%) であった。

#### (8)育児休業制度

育児休業制度を利用したかについては、「母親が利用した」が 197 人 (35.9%)、「自らの意思により利用しなかった」が 165 人 (30.1%)、「利用したかったが、取得しにくい環境であったことから、申し出なかった」80 人 (14.6%) であった。

#### (9)第三世代同居

少子化の流れを変える予防策について、七尾市の提言に関する「家族による子育て力を高めるための三世代同居、または祖父母近居の推進」を聞いたところ、71 人 (13.0%) の回答にとどまった。

### 3)小学生について

#### (1)放課後児童クラブ

##### ①利用の実態

放課後児童クラブの利用の有無については「利用していない」226 人 (69.5%)、「利用している」98 人 (30.2%) であった。

##### ②土曜日の利用

放課後児童クラブを利用している 98 人の土曜日の利用状況は、「利用したことがある」と「利用したことがない」はともに 47 人 (48.0%) であった。

##### ③利用の感想

放課後児童クラブを利用していると回答した 98 人の感想は、「利用料を安くしてほしい」が 45 人 (45.9%)、「利用できる学年を延長してほしい」が 34 人 (34.7%)、「利用時間を延長してほしい」19 人 (19.4%)、「日曜日・祝日も開いてほしい」「指導内容を工夫してほしい」がともに 14 人 (14.3%) であった。

④放課後児童クラブを利用したいと回答した 26 人中、「土曜日にも利用したい」と答えた人は 17 人 (65.4%) であった。

#### (2)第三世代同居

少子化の流れを変える予防策について、七尾市の提言に関する「家族による子育て力を高めるための三世代同居、または祖父母近居の推進」を聞いたところ、34 人 (10.5%) の回答にとどまった。

### 5. 調査に基づく提言

調査に基づく提言は 13 項目となった。

今回、発表するものについては内容を記述、発表しないものについては項目のみとする。

### 1)ひとり親世帯への支援

平成17年の母子家庭の全国平均は1.5%（2008年 国民福祉の動向 p65）である。しかし七尾市のひとり親世帯の割合は、未就学児4.4%、小学生4.5%と全国平均より高いことから、ひとり親世帯への支援が重要となる。

### 2)保育サービス

通常の保育サービスを利用する人の土曜日の保育サービスの希望は「毎週利用」が51.8%、「月1～2回」は26.6%であり、80%近くの人が土曜日の保育を希望していることがわかる。また保育開始希望時刻は「8～9時」が合計84.6%、終了希望時刻は「12時」が30%いるものの、「16～18時」が合計49.5%いることから、土曜日にも通常に近い形での保育サービスを希望している。

日曜日の保育サービスを「毎週利用」「月1～2回」希望している人は合計24.4%であり、利用したいと回答した人たちの開始希望時刻は「7～9時」が95.6%、終了時刻は「16～18時」が76.9%いることから、日曜日・祝日に仕事をしている人たちにとって、利用希望が大きいことがわかる。

これらのことから土曜日の保育サービスを週日並みとするとともに、保育料については自由記載に「土曜日の午後の別料金が問題である」と指摘する声があるので今後検討が必要である。

休日保育を実施する園は市内に3か所であるが、利用希望が多いことから増加させる必要が考えられる。

### 3)預かりサービス全体

省略

### 4)子育て支援センター

省略

### 5)病児・病後児預かりサービス

省略

### 6)放課後児童クラブ

放課後児童クラブの利用率の全国平均は20%程度（2008年 小学1年24.3% 2年21.1% 3年15.4% 「放課後児童健全育成事業の実施状況について」）であるが、七尾市では30.2%であり、全国より利用率が高い。

未就学児の放課後児童クラブの利用希望は50.0%、その中で5歳児の子どもを持つ保護者の希望は48.8%であり、今後さらに利用希望が増加する可能性があり、定員増の検討が必要である。

現在、放課後児童クラブを利用している人の48.0%は土曜日にも利用したことがある。放課後児童クラブを利用したことがないが、今後利用を希望する人のうち65.4%は土曜日の利用を希望している。この人数を足し合わせると64人、全体の19.7%となり土曜日の利用の希望が多いことがわかる。

放課後児童クラブの利用の感想については、「利用料金を安くしてほしい」45.9%、「利用できる学年を延長してほしい」34.7%、「利用できる時間を延長してほしい」19.4%、「日曜日・祝日も開いてほしい」14.3%等であることから全体的な見直しが必要と考えられる。

自由記述には支援内容や従事者の対応不足が見られることから、全体的にレベルの向上を図る対策が必要である。

### 7)子ども教室

省略

### 8)公園

省略

## 9) 子育ての悩み

### (1) 経済的な悩み

未就学児の保護者の子育ての悩みで一番多いのは「経済的な負担や不安」28.8%である。少子化の原因については「子どもの養育や教育のための経済的負担が大きいため」82.3%と最も多く、少子化の流れを変える予防策は「児童手当や税制の見直しなど、子どもの養育費の軽減」78.5%、「子ども医療費助成制度の充実」64.8%、「出産祝い金制度の充実」55.7%といずれも高い値を示している。これらのことから未就学児をもつ保護者は経済的支援が必要と考えていることがわかる。

通常の保育サービスとして保育園を利用している人が90.4%である。1カ月当たりの保育料は七尾市ではD4階層の場合37,000円(3歳未満児)、33,000円(3歳以上児)と高額なため、これが経済的な不安・負担を感じる要因の1つであると考えられる。

出産祝い金は近隣地域に比較して少ないことを指摘する声が多くある。現在の商品券10,000円分ではなく、近隣と比較してそれほどない程度に引き上げ、さらにどの地域でも使えるように地域限定の商品券ではなくできるだけ現金とすべきであろう。さらに独自の児童手当を支給するなど、経済的支援を充実させる必要があると考えられる。

### (2) その他の悩み

省略

## 10) 職場環境

育児休業取得率(「平成19年度雇用均等基本調査」結果概要 厚生労働省)については調査前年度1年間の出産した者について算出しているため、未就学児のうち0歳の子どもを持つ回答者50名について再度分析を試みた。

表1 七尾市の育児休業取得率 (0歳児をもつ回答者 50名)

項目	数	%
母親が利用した	26	52.0%
父親が利用した	1	2.0%
母親と父親の両方が利用した	0	0%
利用したかったが、労使協定等により取得の対象にならなかった	3	6.0%
利用したかったが、取得しにくい環境であった事から、申し出なかった	6	12.0%
自らの意思により、利用しなかった	7	14.0%
無回答	7	14.0%
計	50	

『平成19年度雇用均等基本調査』結果概要によると、育児休業取得率は女性89.7%、男性1.56%となっている。女性の取得率を事業所規模別にみると「5~29人」65.3%、「30~99人」87.6%、「500人以上」90.4%となっており、大企業ほど取得率は高い。今回の七尾市の調査では母親の取得率は52.0%、父親は2.0%、計54.0%であった。七尾市は中小企業が多いことを考慮しても、あまりに全国平均より低く、さらに取得できない理由に「取得しにくい環境であった事から、申し出なかった」が12%あることから、育児休業制度を取得しやすい環境作りを強力に進める必要がある。

## 11) 食育

省略

## 12) 救急医療

省略

### 13) 三世代同居の推進

少子化の流れをかえる予防策に「家族による子育て力を高めるための三世代同居、または祖父母近居の推進」の設問があるが、これについて回答した人は未就学児 13.0%、小学生 10.5%である。提案課題の1つとなっている「三世代同居の推進」については、子どもを育てている世代の方々からは否定的意見が多いため、実現の可能性は薄いと考えられる。

## 6. 調査研究の自己評価

ゼミの課題内容を聞かされた時、とても大きな課題で自分たちにできるのかと不安だった。

活動の中で研修や学内演習を通して、七尾市の現状を見たり聞いたりしたのがとても新鮮だった。でも、できればもっと時間をかけてやりたかった。

七尾市調査を行って、他のゼミでは味わえないような有意義な時間を過ごし貴重な体験をすることができた。もちろん夏休みを返上してゼミ活動をするのは大変で苦しい毎日になったが、調査が終わった後はやりきったという爽快感を味わうことができた。今回やったことは必ず将来役に立つと思うので、参加できてよかった。

今まであまり関心のなかった子育てについて親の立場から考えることができたのでよかった。七尾の人の家族構成や子どもに対する意識、子育て支援に対する考え方を知ることができた。今よりも七尾の現状がよりよくなればよいと思う。また、市の活動に参加しているという責任感も実感することができて、よりやる気がわいた。実際作業を行ってエクセルやワードを使いこなせるようになったし、みんなと協力して一つのことをやり遂げる大切さも学べた。

完成した報告書を読むと、子どもを産むと職場に復帰しにくくなる、養育費が高いなど様々な問題があり、子どもを産む人が本当に減ってきており、少子化が進んでいるということを改めて知ることができた。

また未就学児の保護者は現段階の制度に満足している人は少なく、改善を望む意見が多かった。少子化問題を解決するには、保育料金の値下げなど新たな政策を考え、もっと子どもを産みやすい環境づくりをしていく必要があると感じた。

アンケートを通して知ることができた七尾市に住む子育て中の親の声は「もっと子育てにしやすい環境を」と訴えるものがたくさんあり、このゼミ活動を通して、少しでも今の母親が抱える不満や不安を多くの人に知ってもらい、改善されていけばよいと思った。